清水高原(きよみずこうげん)歳時記（高原の365日）　　NO　5－18

≪長野県山形村≫(やまがたむら)

しいたけ・くりたけ・ひらたけ・なめこの植菌　　2014年5月18日　澤田　繁　著

<手のこぎりで半分に切る>

きのこ栽培は、かなり前から「しいたけ」を中心に何度か“ほだぎ”の伐採から行なってきた。

山にある樹木が今となっては、コスト面でほとんど利用されなくなった近年、少しでも有効に使われる事を考えてしいたけを含め他の種類のきのこの栽培を思い立った。

清水高原に多く生えている木と栽培きのこの種類を考えた結果、くぬぎに「しいたけ」・唐松に「くりたけ」・はんの木に「ひらたけ」「なめこ」を栽培することにしました。

原木栽培を選んだのは「しいたけ」と「くりたけ」でした。昨年の11月頃から今年の2月までに、立木を伐採し、5月まで乾燥のため放置しておきました。5月になって９０ｃｍの長さに“玉切り”にしました。しいたけ用２０本、なめこ用に２０本を用意しました。まずは残してあった３本の１８０ｃｍの木をのこぎりで半分に切って見ることでスタートにしました（手切りは大変)。

<ドリルで駒の入る穴あけ>

駒打ち作業が始まりました。駒打ち専用のドリル（ストッパーが付いたもの）で１０ｃｍ～１５ｃｍ間隔で穴あけを木全体にしました。

後は穴に駒を木の表面まで金槌でたたいて込んで終了です。駒を打ち込んだ木を日陰の林の中に、運んで伏せました。

２０１５年春には、伏せの状態から起こしていつきのこが出てきてもいいように並べます。多分２０１５年秋には少し出ると思います。

数年は春・秋と出てくれるはずですが、野ざらしにしてあるので少し不安です。

菌床栽培は「ひらたけ」と「なめこ」を当てました。立木の伐採と玉切りの時期は全く一緒に行ないました。３０ｃｍに玉切りしたものを、更に１５ｃｍずつペアになるよう切ります。

器に、きのこ菌とおがくずとこめぬかと水を入れ、良くかき混ぜます。この混ぜた物を片方の切り口に塗り込みます。この面にもう片方を合わせ３０ｃｍにし、ひもで縛ってはなれないようにして終了です。これも日陰の林に伏せました。

ひらたけは２５個、なめこは２５個を作りました。夏ごろ菌が白く繁殖していると思われる頃、２つに割り、白くなった面を上にして地面を５ｃｍくらい掘って埋め込みを行なう予定です。

なめこは２０１５年秋には、きのこが出る予定ですので、もうしばらく待たねばなりませんが、ひらたけは２０１４年（今年）秋には、きのこが出る予定ですが、はたしてどのようになりますか？

歳時記ホームはこちら　　http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm